

気仙沼の方言をより多くの人に 知ってもらうには

5608A班

I 序論

目的

気仙沼の方言の衰退を防ぐ

背景

気仙沼の方言が衰退している

(若い人たちが使わなくなっている。)

⇒その土地の歴史や文化が消える。

・その土地ならではの親しみやすさや特徴がなくなってしまう

・地域の人との交流の手段が減ってしまうことになる。

【仮説】

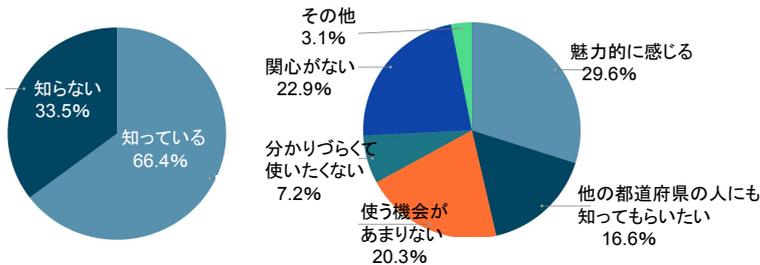
方言に対する関心を持つことで方言の衰退を防ぐことができる。

II 本論

①アンケートを通して方言の認知度・関心について調べる

アンケート対象: 気仙沼高校全学年生徒(192人)

(i) 方言を知っている (ii) どのような関心



(i) 方言を知っている人は

多い

(ii) 関心がある人、使う人は

少ない



方言は使用しないと衰退する

◎解決策: 方言を表示したパッケージのお菓子の販売

②QRコードを読み込んでアンケートに答えてもらう

アンケート対象: 商品購入者

方言の認知度を高め、
また、方言を使う機会を増やすこともできる。



III まとめ・結論

気仙沼高校生の半数以上は方言に関心がない、使いたくないと思っている
→方言の使用頻度が低い

方言を衰退させないためには、若い人たちに方言を知ってもらい、使ってもらう必要がある。
→そのために、お菓子を利用し方言を広めることで方言の衰退を防ぐことができる。

<課題>

◎お菓子販売について

・期間や予算等の都合により、お菓子のパッケージを作成して販売することはできなかった。

・そのため確実な方法まで辿り着けなかった。

○ストーリー性

○メッセージ性×方言

○ユーモア

今後3点に焦点を当てて気仙沼の方言を認知して貰うための方法を研究していく必要がある。

<今後の展開>

・お菓子のほかに方言を表示して販売することのできる商品を調べる

・ストーリー性、メッセージ性、ユーモアを重視した注目されやすいものを作る

→関心、注目度が大きくなる

新しい商品例



Tシャツ



マスク